チーム医療論　(Team Medical Theory)

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
森 啓至、山口 央輝	1年次 前 期	必修	2	30	講義	あり	巻末掲載	可

授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	チーム医療論では、看護師と臨床検査技師のような医療への向き合い方の著しく異なる職種がどのようにチームを構成でき、効果的な職場関係を構築できるか（Team building）について、プログラムの作成など、職種間共同により異なる具体的手法の検討方法を学修する。 課題に対するフィードバック方法／レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。 実務家教員（森、山口）が講義を進める。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「専門職業人として医療に対する幅広い知識と技能を駆使し、高度な臨床検査を実施できる」及び③「健康に関する社会的ニーズを認識するとともに、グローバルな視野を持ち、科学的根拠に基づき、自ら考え、判断し、課題解決に向けて対応することができる。」の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	1.チーム医療の構成について理解できる。 2.チーム医療構築について理解できる。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1回～第15回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく（各30分） 第1回～第15回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める／担当教員が配布する資料で復習を行うこと。（各30分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位15回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位15回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画			
	第 1 回	チーム医療プログラムの作成手法の紹介 Ⅰ	山口央輝
	第 2 回	チーム医療プログラムの作成手法の紹介 II	山口央輝
	第 3 回	チーム医療プログラムの作成手法の紹介 Ⅲ	山口央輝
	第 4 回	チーム医療プログラムの作成手法の具体例について Ⅰ	山口央輝
	第 5 回	チーム医療プログラムの作成手法の具体例について II	山口央輝
	第 6 回	チーム医療の問題点について Ⅰ	山口央輝
	第 7 回	チーム医療の問題点について II	山口央輝
	第 8 回	チーム医療について まとめ	山口央輝
	第 9 回	多職種連携の現状（国内）	森　啓至
	第 10 回	多職種連携の現状（海外）	森　啓至
	第 11 回	多職種連携の問題点（国内）	森　啓至
	第 12 回	多職種連携の問題点（海外）	森　啓至
	第 13 回	チーム医療の一員として臨床検査技師にできることⅠ：NST	森　啓至
	第 14 回	チーム医療の一員として臨床検査技師にできることⅡ:感染対策	森　啓至
	第 15 回	国際緊急援助隊（JDR）における臨床検査技師の役割	森　啓至

評価方法 評価基準	レポート（60%）、プレゼンテーション（40%）で評価する。		
教科書	特に定めない	参考書等	各担当教員から資料を配布
学生への メッセージ	チーム医療は現在の医療に欠かせない。臨床現場へのフィードバックを検討するためにしっかりとした学修をしてほしい。		